

# 古河市政で問われる3つのこと



## 日本共産党の市議は

4年間(H23第2回定例会～H26第1回臨時会)で発言回数59回で第1位。市民にきちんと活動報告。市長が誰であれ、利権や不正の真相究明の先頭に立ってきました。

生活密着型公共事業で、みんながうるおう住みよい街づくりをすすめます。

**VS**

他議員4年間の発言回数は、第2位35回。第3位32回。

ワースト記録は、0回2人。2回2人。3回2人。

「利権を許さない」市民の声が市政を動かしてきました。開発利権復活を許さず、市民に身近な市政にしましょう。

## ③市民の声がとれる市政に

これ以上の負担増はもう限界！

## 日本共産党の市議は

くらし・福祉の充実に実績抜群。「ぐるりん号では、障がい者と付き添い者の無料化はじめ、お年寄りの福祉センター利用料無料化、制度改善」「小学生一人親世帯への給食費無料化」…など。

市民負担増には、きっぱり反対。

**VS**

他議員は、上下水道料金・介護保険料・国民健康保険税など値上げにこぞって賛成。



## ②暴走政治から、市民のいのち・くらし・ふるさとを守る

市長が誰であれ、相手が国・県であれ、はっきりものを言うことができてこそ、市民要求実現にも本気でとりくめます。

戦争法・TPP・原発再稼働・消費税増税…

## 日本共産党の市議は

誰が市長であれ、国・県に関わる問題でも市民に責任を持って、議会でとりあげてきました。

**VS**

国・県が関わることには、答弁をさけてきた現市長派でも、自民党などが背後について反市長派でも、この仕事は、できません。



市民のくらしの実態は、ますます切実になっています。子や孫・古河の自衛隊員の命もおびやかされています。

## ①安倍暴走政治や安保法制にNO!

日本共産党をのばせば、政治は変わります

# 市民の声が政治を動かす新しい時代 いのち・くらし・ふるさとをまもるため提案します

## 国保税や水道料金の引き下げを

「払いたくても払えない」の声が増えています。  
市のため込み金も活用して、国保税を引き下げましょう。  
水道会計の黒字も生かし、水道料金も引き下げましょう。



## 保育所・児童館の充実、 保育士の待遇改善を

古河市の待機児童は、10月1日現在  
46人。県内で3番目に多い人数です。  
「公立保育所を旧三和地区にも」はじめ、  
保育所も児童館ももっと増やしましょう。  
保育士の待遇改善も急務。古河市の  
保育士数は、143名ですが、正規41名、  
非正規102名。正職員希望者は、全員  
職員として身分保障をすべきです。  
子どもたちに「非正規」はありません。

## やさしくて暖かい市政をいっしょに みなさんからよせられる要望実現に力をつくします

- ・ぐるりん号の運行回数やルート増やして利便性を向上させましょう
- ・デマンドタクシーも古河市全域に
- ・小中学校給食費無料化をさらに促進(一部無料化)
- ・子ども医療費の窓口負担なしの無料化を など

## あてのない工業団地開発や思川開発中止、 市のため込み金など財源はあります

県の計画にあわせて、新たな工業団地の計画が。  
あてのない企業誘致は、古河駅東部区画整理事業の二の舞になりかねません。  
市の財政調整基金は30億円余。もとはといえば、職員や住民サービスを削ってためたお金です。  
呼び込み大企業の優遇策や開発より、くらし・福祉の充実にいかしましょう。



## 日本共産党は、 国政にも対案と展望があります

- ★安保法制(戦争法)は廃止  
→北東アジアに平和の枠組みを。憲法9条生かして戦争・テロの温床をなくす人道支援を
- ★憲法破壊の暴走政治はストップ  
→憲法を生かした新しい日本を
- ★国も地域も破壊するアベノミクスは中止  
→格差と貧困をただし中間層も豊かに、税の応能負担、社会保障の充実で、経済も国の財政も再建できる
- ★国の主権・食も命も売り渡すTPPIはストップ  
→国民皆保険制度なども守り安心・安全の経済社会へ価格保障・所得補償を基本に農業をしっかりささえる
- ★再稼働でなく原発ゼロの決断を  
→再生可能エネルギーの飛躍的普及をはかる
- ★核兵器廃絶のイニシアチブを  
→国際社会の一致した力で、米国・中国・北朝鮮を含む核保有国を追い込み核廃絶を迫る

# 日本共産党女性新人に大きなご支援を